

●書学書道史学会

会 報

第 43 号

令和4年(2022)5月15日発行
 編集・発行
書学書道史学会
 広報局
 〒100-0003
 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
 パレスサイドビル 7F
 (株) 毎日学術フォーラム内
 TEL (03)6267-4550
 FAX (03)6267-4555
 MAIL maf-syogaku@mynavi.jp

いあいさし

河内 利治

満開だった桜樹が新たに芽吹き始めました。陽春の候、中村伸夫氏の後を継いで理事長の任に就くことになりました。まったくの微力で不安は募りますが、職務を遂行する所存ですのでどうぞよろしくお願い致します。

本学会は平成2年(1990年)に誕生しました。思い起こせば32年間に数多くの活動をしてまいりました。個人的には、第4回国際書学研究大会(日本教育会館)と記念論文集『国際書学研究/2000』、20周年記念大会(日本大学)と論文集『書学書道史論叢/2011』、30周年記念大会(東京国立博物館)といった周年事業と記念論集の発刊が特に印象に残っています。もちろん毎年の大会開催や時折のシンポジウムと講演、学会誌『書学書道史研究』と「会報」の編集発行は、本学会の生命線ともいえる重要な活動です。これらは国内・国際・編集・事務の各局が担ってきました。また本学会は、日本学術会議協力学術研究団体として、学術局は研究成果の発信と関連学術団体との連携を担い、研究局は研究促進助成金制度により研究助成を行っています。しかし近2年は、コロナ禍のため大会での研究発表や役員会等をオンラインまたはメールで実施し、総会も書面決議を行い、すべて手探りで進めてきたところです。

このような運営を行いながら、若手の理事を中心とした「将来構想委員会」を立ち上げました。原案の作成と審議の経緯は「会報」第42号においてお伝えした

旧局名	旧職掌	新職掌	新局名
国内局	定期大会、研究会の開催及び開催協力等の業務	定期大会、内外の関連する研究者も交えた研究会の開催及び開催協力等の業務	企画局
国際局	国際研究会の開催及び開催協力、海外の学術団体及び研究者との連結ならびに研究交流の促進等の業務	内外の関連学術団体・学協会及び研究者等との連携、ならびに国際的・学際的研究交流促進等の業務	渉外局
研究局	学会の研究活動の振興・発展に資する業務	助成や褒賞等、学会の研究活動の振興・発展に資する業務	振興局
学術局	関連学術団体・学協会等の対応、学際交流促進等の業務		
編集局	学会誌、機関紙誌その他の編集に関する業務	学会誌の編集に関する業務	編集局
		機関紙誌及びホームページ等による広報、ならびに書学書道史研究の普及に関する業務	広報局
		会の財務一般に関する業務	会計局
事務局	会の事務・財務一般、組織及び事業の管理ならびに書学書道史研究の振興普及に関する業務	会の事務一般、組織及び事業の管理に関する業務	事務局

とおりです。その後令和4年3月27日の臨時理事会(新旧役員合同)において、委員長として次のように総括しました。——将来構想委員会は令和2年度に現役員第16期がスタートするとともに、将来不透明な現代社会にあつて、本学会の新たな仕組みを構想するため、国内・国際・学術・研究・編集・事務の6局長による「将来構想委員会(仮称)ワーキンググループ(答申)」を取りまとめ、中村理事長に提出しました(「会報」第40号)。本委員会の設置は、「ウィズコロナ時代に即した新しい学会のあり方を検討する」

ことが契機でありましたが、学会をめぐる諸般の事情に鑑み、A、B、Cの3小委員会を設置し、それぞれの課題に取り組むことにいたしました。各課題の性格とその達成状況は、それぞれ異なりますが、委員会全体として顧みると、概ね当初の目的は達成したと総括いたします。

この4月からは、組織を改編し新体制で臨みます。企画、渉外、振興、編集、広報、会計、事務の7局体制です。詳細は対照表をご覧ください。新体制は会則第17条の改正案に対する審議(書面決議)において正案となったものです。新体制への移行については、局長間で迅速かつ綿密な連携を取りながら進めております。古参の会員には耳慣れない局称でご不便をおかけしますがどうぞご承知おきください。

会員各位は、日々ウイルスへの感染症対策を講じながら、研究や教育に取り組んでおられると思います。新体制においても広く会員各位の知恵を結集して、さらなる学会の発展を図ってゆきたいと考えています。どうか皆さまの積極的なご支援とご協力をお願いします。

(本会理事長)

第32回 書学書道史学会大会開催のお知らせ

企画局

今年度の書学書道史学会大会は、10月29日(土)、30日(日)の両日にわたり、盛岡大学において、旧来の対面方式での開催を予定しております。開催に際しては、新型コロナウイルスへの対策の徹底を図りますが、やむを得ない事情で対面方式による参加が困難な方には、事前にお申し出いただくことで、オンラインでの参加も可能とするように対応します。

詳細および参加申込については、9月下旬に「大会のしおり」として研究発表のレジюмеとともにご案内を差し上げます。現時点での概要は以下のとおりです。ただし、今後の感染症の拡大により、昨年度のようなオンラインのみによる開催、または一昨年度のような開催中止の場合もあります。開催方法は「大会のしおり」の発送の後にも変更する場合があります。最終的には学会HPでお知らせしますので、ご承知おきください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

◆理事会

10月29日(土)
11時00分～
盛岡大学砂込キャンパスD202講義室

◆大会

10月29日(土)
12時00分～
受付開始
盛岡大学砂込キャンパスD201大講義室
開会式、総会
13時00分～14時00分
開会式、総会
14時00分～15時30分
研究発表(3本程度)
15時40分～17時10分
講演「宮澤賢治の文学と書(仮)」
宮澤和樹氏(林風舎代表)

10月30日(日)
9時30分～11時45分
研究発表(4本程度)
11時45分～13時00分
記念撮影、昼食
13時00分～14時00分
研究発表(2本程度)
14時00分～14時10分
市内博物館・美術館案内、閉会式
14時00分～14時10分
閉会式後、市内博物館・美術館を自由見学・解散

◆JR盛岡駅からの会場へのアクセス

バス
岩手県北バスで「盛岡大学」行または「沼宮内」行(所要時間約30分)。大会専用のバスの貸切も検討しています。詳しくは「大会のしおり」でお知らせします。

電車

IGRいわて銀河鉄道で滝沢駅下車(所要時間約15分)。滝沢駅から路線バス乗り換え「盛岡大学」行(所要時間8分)。タクシー
約15キロ。

◆宿泊施設について

役員、会員ともに各自で手配願います。

お問い合わせ先

書学書道史学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル7F
TEL:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555
(株) 毎日学術フォーラム内
メールアドレス maf-syogaku@ynavi.jp

第32回 書学書道史学会大会研究発表者募集要項 企画局

今年度の書学書道史学会大会は、上記のとおり開催いたします。会員各位には、日頃の研究成果を意欲的かつ積極的に発表いただきたく、左記の要領で募集します。

記

- ①開催日/方法:10月29日(土)、30日(日)/対面での発表を原則としますが、オンラインによる発表に切り替わる場合があります。その場合は、それに応じたIT機器を扱っていただきますので、ご承知おきください。
- ②発表時間:各30分(発表20分、質疑応答10分)
- ③申込方法: Eメールにて、右記お問い合わせ先までお申し込みください。件名には必ず「書学書道史学会大会発表申込(※発表希望者氏名を付す)」と明記してください。また本文の冒頭に「所属・氏名・連絡先」を記したのちに、発表内容の題目および発表内容の要旨をレジюме(800字程度)にまとめてご提出ください。

④レジュメ：原則として、ワープロ（テキスト形式、Wordファイル形式のいずれか）で作成し、申込時のEメールに、ファイルを添付して送信してください。

⑤申込締切：6月30日（木）必着

⑥発表者の決定と連絡：7月10日（日）開催予定の常任理事会にて協議・決定し、採否の結果は個別に連絡いたします。

⑦レジュメ集の公開：上記の「大会のしおり」（9月下旬配付）には、研究発表レジュメ集を添える予定です。この内容はホームページにも掲出いたします。

※注記

・大会の発表者については、学会誌『書学書道史研究』第33号への投稿申込があったものとして扱われますので、改めて学会誌への投稿申込を行う必要はありません。

・学会誌への論文投稿締切は、令和5年3月31日となっております。投稿後、原稿掲載の採否は論文査読委員会によって決定されます。

書学書道史学会例会発足のお知らせ

企画局

本学会では、今年度より「例会」を発足させることになりました。会則の目的「書学書道史とこれに関連する文化に関する研究の発展向上、国際交流の促進を図ること」に則り、会則の活動・事業に規定される「随時の研究集会」および「国際研究集会」に対応する企画とするものです。

今後、毎年度6〜7月に一回（半日、2〜3時間程度）は開催することとし、会員による研究発表の他、国内外の講師による講演やシンポジウム等によって構成してゆく予定です。会員の研究発表については、これまで年一回の大会に限られておりましたが、その機会を拡充することが例会発足の大きなねらいです。必要に応じ、大会での研究発表よりも発表時間や質疑応答の時間を長めに確保し、議論を深めることも視野に入れていきます。

また、昨今の情勢を踏まえ、開催は対面方式の他、必要に応じZoom等のオンラインによるライブ開催や、期間を定めた発表録画のオンデマンド配信等も柔軟に取り入れてゆく予定です。

会員各位には、大会と同様に、例会での研究発表にも奮って応募くださるよう、お願いいたします。例会での発表を学会誌に論文として投稿する場合には、大会発表の場合と同様に、各年12月末締切の投稿申込を免除する方針です。今後、毎年1月に刊行される『会報』にて、次年度の例会での研究発表を募集しますので、詳しくは『会報』での募集要項をご覧ください。なお、確定したプログラムは、毎年5月に刊行される『会報』や学会ホームページでお知らせいたします。

2022年度書学書道史学会例会のお知らせ

企画局

記念すべき初発の例会は、故宮博物院（台北）の陳建志先生による「講演を企画いたしました。陳建志先生は、筑波大学大学院博士後期課程を修了され、現在、同院の書画文献処に助理研究員としてご奉職です。

故宮博物院では数多の企画展示に携わる傍ら、中国書法史に関する研究論文を多数発表され、『故宮法書新編』等、故宮博物院の名跡の出版にも尽力されています。

本学会では、先月にかけて故宮博物院（北京）の王連起先生のご講演をホームページで配信したところですが、陳先生には、王先生と同じく趙孟頫をテーマに、本学会に向けて最新の研究成果をご提供くださいました。ご講演の概要は、左記のとおりです。

趙孟頫書法の研究史における転換点とその意義

―「太上老君說常清靜經」、「三門記」、「絶交書」を例として―

趙孟頫（1254〜1322）、字は子昂、松雪または水精宮道人などと号した。呉興（現在の浙江省湖州）の人である。彼の出自は宋の宗室に連なるが、宋が滅びて元に出仕し、官は翰林学士承旨に至った。諡は文敏。彼の書法は先人の成果を集成して後世を切り拓くもので、その影響は甚大であった。例えば明代の中葉に文壇の盟主として活躍した王世貞（1526〜1590）は、「文氏停雲館十跋」において「第八卷、呉興の趙文敏の書あり。…又た『上下五百年、縦横一万里、拳るに其の敵無し』と云ふは、真に知言なる哉」と述べている。その当否はしばらく措くとして、今日、世界で公私に所蔵される趙の法書・墨跡に目を向ければ、340件余りにも達し、彼の生涯や書作、書法観に関する研究や、さらに年譜・字典の編纂・出版に至っては、何千何百という数えきれない件数に上ると言っても過言ではない。

今年には趙の没後700年という節目を迎える。この講演では、講演者がこれまで考察してきた「太上老君說常清靜經」、「三門記」、「絶交書」の3件を例として、それらの年代順に、関連する代表的な著作や論文を掲げるとともに、各作品において論及し得る書法の風格、款識、文章内容、書作の背景、編年、收藏と流伝、版本、真偽、書法史上の位置など各方面の論点を回顧し、補足してゆくことにする。その際、具体的事例によって過去の研究における理念上の答えや疑問を丹念に分類整理し、趙の異なる時期の書作に対する研究の脈流を跡付け、その意義を窺うことで、この節目を記念したい。

この講演を学会ホームページで7月1日〜31日にかけて公開いたします。詳しくは、近々にお送りする案内をご覧ください。

名誉会員の推挙について

理事長

令和4年4月1日付で改正施行された会則第5条の規定に基づき、4月24日の令和4年度第1回理事会において、大橋修一氏(第11・12期理事長)、澤田雅弘氏(第13・14期理事長)、中村伸夫氏(第15・16期理事長)が名誉会員に推挙されました。本学会の発展に尽くされましたことに心より御礼申し上げますとともに、今後の益々のご活躍を祈念いたします。

なお、現在の名誉会員は左記になります。

名誉会員・賛助会員一覧

事務局

◆名誉会員(五十音順、令和4年5月1日現在)

- 新井儀平 池田 温 浦野俊則
- 大橋修一 興膳 宏 澤田雅弘
- 杉村邦彦 中村伸夫 西林昭一
- 野中浩俊 古谷 稔 松丸道雄

◆賛助会員(五十音順、令和4年5月1日現在)

- 謙慎書道会 玄潮会
- 創玄書道会 竹扇会
- 朝聞書会 貞香会
- 東方書道院 日本習字教育財団
- 臨池会

新入会員紹介

事務局

◆一般会員

- 長谷川多賀代(書の庵主宰)
- 松尾理絵
- 吉田 功
- 渡邊周一(四国大学)

◆学生会員

- 梅津祥全(大東文化大学大学院)
- 岡田麻美(大東文化大学大学院)
- 北村優介(大東文化大学大学院)
- 草野 剛(筑波大学大学院)
- 黄 翔柔(筑波大学大学院)
- 茂野佳奈子(筑波大学大学院)
- 孫 孺(大東文化大学大学院)
- 高久紗耶(筑波大学大学院)
- 丁 子成(大東文化大学大学院)
- 中津雅美(大東文化大学大学院)
- 長谷川智(筑波大学大学院)
- 向井みりあ(大東文化大学大学院)
- 望月 豪(大東文化大学大学院)
- 山田沙奈(大東文化大学大学院)

※令和3年10月〜令和4年4月に申請された方

第17期役員・幹事・諮問委員・選挙管理委員一覧(※は新任)

〔役員〕

- 【理事長】 ※河内利治(大東文化大学教授)
- 【副理事長】 ※菅野智明(筑波大学教授)
- 富田 淳(東京国立博物館副館長)
- 尾川明穂(筑波大学准教授)
- 萱のり子(奈良国立大学機構奈良教育大学教授)
- ※下田章平(相模女子大学准教授)
- 高橋利郎(大東文化大学教授)
- ※高橋佑太(筑波大学准教授)
- ※成田健太郎(京都大学准教授)
- ※増田知之(安田女子大学准教授)
- 企画局長
- 渉外局長
- 事務局長
- 編集局長
- 副編集局長
- 広報局長
- 副広報局長
- 振興局長
- 会計局長

第17期役員選挙について

選挙管理委員会

◆役員選挙の経過と結果

本学会選挙管理委員会は、第16期役員任期満了にともない、選挙管理規定に基づいて令和4年3月17日を投票締切日と定め、郵送による第17期役員選挙を実施しました。

開票作業は3月18日、小川博章選挙管理委員長指示のもと、選挙管理委員により、事務局のある毎日学術フォーラム会議室において実施されました。投票状況については、投票有権者数436票のうち、有効投票95票・投票率22%（令和2年度：74票・投票率16%、平成30年度：70票・投票率14%、平成28年度：80票・投票率15%、平成26年度：106票・投票率21%、平成24年度：65票、平成22年度：47票、平成20年度：61票、平成18年度：92票）でした。開票結果を受け、同規定第6条により、以下の通り選挙選出理事10名、監事2名を当選者として確定しました。但し、当選理事の橋本貴朗氏、小川博章氏の辞退により、萱のり子氏、中村伸夫氏が繰り上げ当選となり、中村氏の辞退により、増田知之氏が繰り上げ当選となりました。

【選挙選出理事】（五十音順）

尾川明穂	萱のり子	河内利治
菅野智明	下田章平	高橋利郎
高橋佑太	富田 淳	成田健太郎
増田知之		

【監事】（五十音順）

丸山猶計 柳田さやか

◆第17期役員会等発足

第17期役員選挙の開票、当選者決定を受け、令和4年3月21日に選挙選出理事による緊急懇談会（メール協議）を開催し、理事長の互選と理事長指名理事10名を選出しました。これに続き3月27日に開催された臨時理事会（オンライン会議）において、各事業部局の分掌、諮問委員、選挙管理委員会委員を以下の通り決定し、第17期役員会等が発足しました。今期の役員・幹事・諮問委員・選挙管理委員の任期は、令和4年4月1日から令和6年3月31日までです。

【理事】

※青山浩之（横浜国立大学教授）

小川博章（淑徳大学教授）

※中村史朗（滋賀大学教授）

永由徳夫（群馬大学教授）

鍋島稲子（台東区立書道博物館主任研究員）

福田哲之（島根大学教授）

※六人部克典（東京国立博物館研究員）

矢野千載（盛岡大学教授）

弓野隆之（大阪市立美術館学芸課長）

横田恭三（跡見学園女子大学教授）

【監事】

※丸山猶計（大東文化大学准教授）

柳田さやか（東京藝術大学助教）

【幹事】

企画局

川畑 薫

※剣持翔伍

山口恭子

渉外局

金 貴粉

峯岸佳葉

振興局

権田瞬一

角田健一

編集局

井田明宏

正岡知晃

広報局

佐々木佑記

※村田 萌

会計局

金子 馨

事務局

※來司信博

野中直之

藤森大雅

【諮問委員】

安達直哉

押木秀樹

下野健児

神野雄二

杉浦妙子

高木厚人

名見耶明

信廣友江

宮崎洋一

【選挙管理委員会】

委員長

小川博章

※六人部克典

柳田さやか

委員

※高橋佑太

（以上、理事・監事枠より4名）

柳田さやか

亀澤孝幸

野中直之

（以上、会員枠より2名）

各局報告

◆企画局

本局では主に旧来の国内局の業務を引き継ぎ、大会をはじめとする各種の行事・催事を企画してまいります。今年度の大会は久々に対面方式を復活させる予定です。2日にわたって研究発表を設けますので、会員各位には奮ってご応募ください。また、新たに発足させた例会についても各位の発表を募ります。詳しくは来年1月に発行予定の『会報』44号をご覧ください。

(局長 菅野智明)

◆渉外局

◆学会誌31号のJ-STAGE登載

令和3年10月31日刊行の『書学書道史研究』31号を、J-STAGEで公開しております。

◆WEB「学会名鑑」

現在公開中の「学会名鑑」は、令和4年6月をめぐりに終了予定です。今後の公開方向は、現在調整中です。公開方法の変更に伴い、現在は内容変更ができませんので、ご承知おきください。

◆書画・典籍・金石資料に関する施設・展覧会案内

中国大陸・台湾・韓国等の博物館・美術館で開催される特別展・常設展について、各施設がウェブサイトをなどで提供した情報をご案内しました(令和4年3月10日現在)。

(局長 富田 淳)

◆振興局

振興局は、旧研究局の業務を継承しました。令和4年度は、局長の成田、中村史朗、福田哲之両副局長、権田瞬一、角田健一両幹事の5名で運営してまいります。

◆研究促進助成金制度について

本制度は旧研究局から振興局の所管となり、2022年度「研究促進助成金制度」による研究計画の募集を開始しました。過年度の募集では、採択された翌々年の

大会において口頭発表を行うことが義務づけられていましたが、今年度分からは、新たに企画されている「例会」もその機会に加えられました。ホームページに掲載されている「2022年度募集要項」研究促進助成金制度」をご覧ください。奮ってご応募ください。

研究促進助成金その他振興局所管業務に関するご質問やご意見がございましたら、本会報一面の(株)毎日学術フォーラム内事務局(メールアドレス: sogaku@ynavi.jp) 担当: 松井裕希氏 までお寄せください。

(局長 成田健太郎)

◆編集局

◆『書学書道史研究』第32号の編集について

令和4年3月末日締め切りで応募のあった論文12件のうち11件を受理し、学会誌刊行に向けて編集を開始しました。投稿論文のうち1件は形式規定を満たしておらず、編集委員会で受理することができませんでした。投稿の際には、ホームページの「投稿規定 執筆要領」および「別紙様式例」をご確認のうえ、様式に沿った原稿作成をお願いいたします。

書学書道史関係の最新紹介、書評で取り上げるべき書籍等のご推薦を受け付けておりますので、随時お寄せください。

(局長 萱のり子)

◆会計局

◆年会費についてのお願い

本号に年会費納入用の郵便振替用紙を同封しています。年会費は、6月30日までに納入ください。なお、令和4年3月現在、会費を滞納している方には、本年度分に滞納年度分を加算した金額が記載されております。速やかに全額をご納入ください。

また、3年以上滞納の方は、すでに導入されている「長期会費滞納者の自動退会除籍制」の適用対象となります。ただし、退会(除籍)適用対象者となった場合であつ

でも、退会届提出の年度分までの合算額における学会費の請求権は消滅しません。本件に関して、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入請求を続けることが総会にて決定されていますので、予めご了承ください。

なお、海外在住の会員の方は、クレジットカードによる年会費の納入が可能です。クレジットカード決済を希望される方は、振興局所掲の事務局までご連絡ください。

◆事務局

修了などにより学籍を離れた方へ

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。「会員変更申込書」の提出により一般会員資格の付与などが行われますので、今春に学籍を離れた方は必ず提出ください。「会員変更申込書」は、学会ホームページからダウンロードできます。

(局長 増田知之)

**学生会員から一般会員への変更届用
書学書道史学会変更申込書**

私議 貴学会へ変更を申し込みます。 20 年 月 日

ふりがな:	電話番号:	印
氏名:	性別(男・女)	
生年月日: 年 月 日生	年齢:	
現住所(〒)	(※任意の〒は省略)	
Mail:	携帯:	
E-mail:		
最終学歴: 大学	学部	学科
学歴:	大学院	専攻
前勤務・所属名:		
身分・役職名等:		
現勤務・所属名:		
身分・役職名等:		
専門分野:		
研究歴/発表歴/研究業績(修士論文含む)		

(裏面使用可)

会員名簿発行に伴う情報提供のお願い

昨年度、会員名簿が発行されました。ご住所・ご所属・会員種別等の変更や修正がございましたら、振興局所掲の事務局までご連絡くださるようお願い申し上げます。また、転居や所属の変更があった会員をご存じの場合は、本人に確認の上、事務局までお知らせいただけましたら幸いです。

なお、「会員変更申込書」下の「紹介会員氏名」「役員推薦氏名」「理事承認」各欄の記入は不要です。書類送付やお問い合わせは、振興局所掲の事務局までお願いします。

令和4年度事業・活動計画(案)

本来ならば総会で承認を得るべきものですが、現段階での予定としてここに示いたします。変更等の可能性もありますので、ご留意ください。

- 4月10日 第1回常任理事会(オンライン会議)
 - 4月24日 第1回理事会(オンライン会議)
 - 5月15日 第43号《会報》発行及び発送 (以上は執行済み)
 - 6月1日 「研究促進助成金制度」申請受付(〜7日)
 - 6月30日 第32回大会発表申込締切
 - 7月1日〜31日 2022年度例会(オンライン配信)
 - 7月上旬 令和3年度決算会計監査
 - 7月10日 第2回常任理事会(オンライン会議)
 - 9月下旬 《大会のしおり》《大会レジュメ集》発行及び発送
 - 10月29日 第2回理事会(定例)(於盛岡大学)
 - 令和4年度総会(於盛岡大学)
 - 10月30日 第32回大会1日目(於盛岡大学)
 - 10月31日 第32回大会2日目(於盛岡大学)
 - 12月31日 第32号『書学書道史研究』発行及び発送
 - 1月15日 第33号『書学書道史研究』投稿申込締切
 - 1月15日 第44号《会報》発行及び発送
 - 3月31日 第33号『書学書道史研究』投稿原稿締切
- (局長 尾川明徳)

事務局(株毎日学術フォーラム内)への電話でのお問い合わせにつきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため的一部テレワーク実施に伴い、後日のご連絡となる場合がございます。

ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

談話室

続・文房四宝の危機

安達 直哉

3月31日に大東文化大学を退職致しました。この17年間多くの方々に助けていただき感謝に堪えません。最後の2年間は新型コロナウイルスに翻弄され、さらに2月末にはロシアの侵攻という事態に遭遇しました。どちらも一日も早い終息を願わざるを得ません。

さて、昨年7月に大東書道学会で「文房四宝の危機」という題で、紙・筆・墨・硯について、原料不足、後継者不足、質の低下による保存性の減退という危機的状況をお話ししました。ところが、戦争によりさらに状況が悪化し、ますます原材料の不足・価格の高騰が進み、製品価格の急激な上昇も避けられないでしょう。書道を志す学生にとって大変な打撃になるのではないかと、何らかの補助が必要ではないかと心配しています。

筆文化の発展に向けて

信廣 友江

筆の都広島県熊野町は、春分の日を「筆の日」としている。この日、熊野町と勤務先の安田女子大学は包括連携協定調印

式を行った。本協定は、行政と大学が連携して筆文化の振興と発展に寄与することを目的とし、筆文化の次世代への継承、書教育や研究など筆をキーワードとする様々な取組みを活動の対象としている。調印の会場は、筆のミュージアム「筆の里工房」。厳肅さの中にも和やかに式は進み、最後に学生たちが心を込めて「進徳脩業」の4字を大書した。式後の子どもたちとのワークショップ、町内での多様なスタイルの作品展示等々、広報を含め約半年間をかけた学生たちの細やかな準備が実り、官学連携事業はよいスタートを切ることができた。

先人の横顔

権田 瞬一

ここ数年、戦前の定期刊行物の編集後記を好んで読んでいる。神保町で買い蒐めたり、研究機関やその図書館、国立国会図書館のデジタルコレクションなどを利用したりしている。中でもお気に入りには『書藝』『筆之友』『印印』である。それらを読むことによって、当時の書人印人の細やかな動向を知ることができて非常に楽しい。

編集後記には本編や後人による著録には描かれていない先人のプライベートな部分や意外な横顔が垣間見ることがある。超人だと思っていた先人の人間的な一面に触れることができる。

このように先人の素の部分を知ることによって、その作品の見え方まで変わることもある。時に神格化される先人の業績を冷静に分析し、人間味溢れた側面をも検討材料に加えながら今後研究を進めていきたい。

私たちを出会わせたのは書

史 清晨

中日両国の人の顔は似ていながら、今日の文化、社会や政治などの面では隔たりを感じることもありました。それでも、留学中、中国にいるような気がする時がありました。それは、漢字と書道のおかげだろうと考えています。書の研究者になった私にとって、書道は両国の間の最も緊密な絆であると言っても過言ではありません。コロナ禍でほとんどの社会活動を控えていましたが、オンラインディスプレイなどに参加し、できるだけ多くの展覧会を見ました。そして、自分の展覧会も開催しました。

今、高橋利郎教授のもと、順調に博士論文を完成させ、私の研究は新しい段階に入りました。留学生活は僅か数年でしたが、日本でスタートした千字文研究は私の人生の大切な核になります。帰国後も研究の道を進み、中日の文化交流に微力を尽くしたいと思えます。

編集後記

◆先日、リニューアルオープンした藤田美術館を訪れましたが、眼前に展開する寸松庵色紙や継色紙に目を奪われました。特に寸松庵色紙は転写の墨痕がはつきりと見え、眼福の至りでした。(高橋佑太)

◆広報局幹事として微力ながら尽力して参ります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。勤務先の五島美術館では、特別展「西行」(10月22日～12月4日)の開催に向けて準備を進めています。平安後期より近代まで、語り継がれてきた西行のすがたを、絵巻・書・文芸・工芸によってご紹介いたします。書は全国の諸機関やご個人が所蔵する、真筆や伝西行の古筆の名品を拝借して展覧予定です。(佐々木佑記)

◆今期より本誌編集作業に携わることになりました。微力ながら精一杯務めさせて頂きたく思います。ご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

本会員になって4年目に突入しました。秦簡の研究で、ここ2年は秦簡文字をひたすら見つめ、自分にしか出来ない研究の道筋を模索しているところです。本紙の編集作業はもちろん、自分自身の研究活動、どちらも共に精進し邁進していきます。(村田 萌)

◆この2年間で世界中がリモート作業を受け入れられることになりました。今回のような社会の変化は、否応なしにそれに応じた生き方の術を生み、社会構造の再構築を促します。書をめぐる文化環境も、気候や政治の動き、天災人災さまざまな影響を蒙ってきたはずですが、講演会のオンデマンド配信や新たにスタートする例会におけるオンライン環境の弾力的な活用など、この学会でもコロナで獲得した経験知を活かしていくこととなります。新たに置かれた広報局では、会員皆様の研究活動に益する情報の提供に努めたいと思えます。(高橋利郎)